

【ベストプレゼンテーション賞選定記】

山口高平（第7回全国大会・研究発表大会 プログラム委員長）

2011年11月26日(土)に、同志社大学新町キャンパスで第7回全国大会・研究発表大会が開催されました。本大会でも、昨年からは開始されたベストプレゼンテーション（BP）賞が設けられ、八島敬暁（慶應義塾大学）さんがBP賞を受賞されました。

・八島敬暁，山崎淳城，久光遼平，飯島正（慶應義塾大学）：建造物の設計図情報と広域の地理情報を活用したマルチエージェントシミュレーション環境の構築

BP賞の選定につきましては、昨年度経験済みでしたので、今年度は、比較的順調に進んだと思います。今年度は、39件の発表申込みがあり、論文投稿〆切日の11月4日までに34件が投稿され、昨年度同様、9割近くの方が投稿〆切日を守って頂くことができました。その後2週間かけて、1編の論文に3人のプログラム委員を割当て、書類審査を実施し、その結果、複数の委員から推薦された、下記の5編がBP賞候補論文となりました。

- ・金田重郎(同志社大学)：日本語特性に着目した修正版GTAと要求分析への適用性
- ・酒井孝真(同志社大学)：概念データモデリング(CDM)と制約理論(TOC)に基づく分析法の提案—業務分析であるべき姿を導き出す—
- ・高塚洋平(慶應義塾大学)：複数センサによる卓上作業認識と作業支援環境の構築
- ・八島敬暁(慶應義塾大学)：建造物の設計図情報と広域の地理情報を活用したマルチエージェントシミュレーション環境の構築
- ・川合康央(文教大学)：まちづくりにおける市民要望の分析

大会当日は、プログラム委員が座長を務めましたので、委員で手分けして上記の5編の候補論文の発表を聴講し、大会終了後に、書き物（論文）と発表を総合評価した結果、最初に記載したように決まりました。八島敬暁さんは、慶應義塾大学大学院修士学生ですので、発表が抜群というわけではありませんでしたが、地理情報と建造物の設計図という粒度の異なる空間情報を統一的に活用するシミュレーション技術は斬新であり、また、災害発生時の避難誘導など、昨今、緊急時対応にICTを活用した社会的意義の高い研究という評価を受けて、BP賞を授賞されました。

今回、候補論文を始め、惜しくも受賞できなかった論文が多数あり、BP賞選定後、プログラム委員から、「次年度以降、異なった観点から複数の賞を設ければどうか」という意見が出されました。現在、プログラム委員会で複数の賞の設置について検討中です。

授賞は、発表者のモチベーションをあげ、今年度もいい効果が生まれたように思います。来年度以降も引き続き研究発表をよろしく願います。